故郷への愛着を

公益社団法人春日部青年会議所は、愛する郷土の発展を目指し活動エリアである春日部市・宮代町・杉戸町においてさまざまな事業を行ってまいりました。時代ごとに社会情勢は大きく変わり、課題もまた移り変わってきました。物質的な豊かさを追い求めた高度経済成長の時代から、経済は発展したが心の豊かさが問われる時代へ。そして今、地方創生という言葉が叫ばれるように地方における人口減という社会・時代へ突入しようとしています。

地域室ではこの問題を、愛する郷土の発展に向けての大きな課題としてとらえ、ひとつの解決策を提示していこうと考えています。そして人が集まり活気のあるにぎやかなまちへの一歩を踏み出してまいります。

さて、人口減社会といっても多様な要因があります。出生数の減少や、若者世代の市外への転出者が多いことなど様々な理由が考えられます。私たちは、若者がこのまちに残る、あるいはこのまちに戻りたいと思ってもらえるような、生まれ故郷への愛着と帰属意識を持ってもらいたいと考えます。さもなければ、地域は衰退し、持続的な発展を能動的に担っていく人材が減っていってしまうからです。

そのためにはまず、感受性の豊かな子どものころからこの地域の魅力に触れ、親しみや愛着をはぐくむことが必要です。そして同時にこの地域が抱える問題を知ることが、彼らが大人になった時、まちづくりに主体的に取り組む使命感につながります。

さらに、地域の責任世代の方々にもこの考えを共有していただき、我々とともに子どもた ちに向き合ってほしいと考えています。

私たちは地域社会の抱える課題を持続的に好転させるべく、忘れがたい豊かな地域体験を通して「故郷への愛着」を生み出してまいります。さらに、この運動を広く伝播することが愛する郷土の発展につながるのです。そのためには、地域の方々から共感と信頼を得られる姿勢でこの運動にのぞむ必要があります。去華就実の精神で、丁寧に真剣に事業の構築に取り組み多くの人たちの心を動かしていきましょう。

つなげるまちの魅力

日本は、出生率の低下や、高齢化率の上昇などを背景に、人口減少社会に突入しています。急激な人口減少によって地域経済の衰退が予想されるなか、われわれ公益社団法人春日部青年会議所は、明るい豊かな社会の実現を目指し、この深刻な問題の解決策を考え、実際の行動に移さなければなりません。

地方における人口減の主な要因としては、就職を機に地元を離れる若者世代が多く、一旦離れるとまちに戻る機会が減ってしまうことが原因と考えます。この世代の若者が、この地域に残る、もしくは一度出てもまた戻ってくるようになれば、この地域に活気が戻るのではないでしょうか。

そこで、われわれ青年会議所が地域の青少年に対して、感受性豊かな子どものころから、まちの魅力、まちの問題を知ってもらう機会を作る必要があります。まちの魅力に触れることで、子どもたちが故郷を愛する気持ちを醸成し、同時にまちの問題を知ることで、愛する郷土を何とかしたいという故郷への帰属意識を身につけてほしいと考えます。

では、まちの魅力とは何なのでしょうか。私自身、魅力は人だと思っております。改めて地域のどこに魅力を感じてこのまちに住んでいるのか考えた場合、地元の特産物や便利な施設があるからこのまちが好きなのではなく、親、兄弟、仲間と共に過ごした経験から、人を通してつながるまちの魅力があるからだと思います。その中でも、青少年が将来を考え始める年齢になった時に大きな印象を与えられるよう、特に、地域で活躍する人や企業をまちの魅力として捉え、子どもたちに知ってもらいたいと考えます。

豊かな地域体験を通して子どもたちと責任世代の方々に、まちの問題意識を共有してもらい、 そして、まちの魅力と子どもたちをつなぎ、その魅力を責任世代に発信することにより、より地域への関心を高めてもらうきっかけをつくります。

我々地域創造委員会をはじめとするメンバーが、まちの魅力である、人や企業と子どもたちとのつながりをつくり、魅力を発信することにより、地域の人が一人でも多く、郷土愛と故郷への帰属意識を持つ、そんな未来にするために活動してまいります。

- (1)郷土愛の循環する地域の創造に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) 古利根川清掃に関すること。

謹厳実直

~『実に就く』姿勢で組織の根幹を担う~

公益社団法人春日部青年会議所は愛する郷土の発展と人間性の向上という創始の理念のもと、「市民意識変革運動」を継続して行って参りました。これまで春日部青年会議所が半世紀以上にわたって力強く運動展開が続けてこられたのは、諸先輩方が公益法人としての適正な運営と強固な組織づくりを常に実践し、そこにたゆまぬ努力があったからであると考えます。

春日部青年会議所は、平成24年11月に公益法人制度改革による公益社団法人へ移行をして早くも5年が経過しております。公益社団法人は、株式会社や一般社団法人、NPO法人といった他の法人格よりも厳しいコンプライアンスの遵守が求められます。単年度制および40歳での定年制という組織の新陳代謝が極めて早いこの青年会議所においても、私たちは、今後も運動展開を続けていく上で、この公益法人格としての責任を自覚し、地域の方々からの信頼に応えるべく常に学ぶ姿勢で、安定した組織運営を行っていかなければなりません。

本年度総務室では、春日部青年会議所が地域の方々から信頼を得られる組織であり続けるために、適正な総務運営と厳正な財務管理を徹底して行って参ります。また、青年会議所が持つひとつひとつの規律の意味、そしてそれを守ることの重要性を会員が改めて理解共有できるように、まずは総務室が率先して、当たり前のことをひとつひとつ丁寧に行う『実に就く』姿勢で担いを全ういたします。

春日部青年会議所が愛する地域社会の発展のため、より力強い運動展開を続けていけるように、総務室は組織の根幹として青年会議所運動の下支えとなるべく、責任をもって臨んで参ります。

一つひとつ丁寧に組織の根となり幹となる

春日部青年会議所は「愛する郷土の発展と人間性の向上」を目的として設立され、その想いは半世紀以上にわたり、多くの先輩諸兄によって脈々と受け継がれてまいりました。その想いを絶やす事無く、さらなる力強い運動を継続していく必要があります。また、公益社団法人とは「不特定多数の者の利益の増進に寄与する団体」を指します。春日部青年会議所は公益社団法人としての責任を自覚し、地域の方々に共感され、その信頼にこたえられる事業を展開しなければなりません。その為には、メンバー一人ひとりの運動意識を高め、組織として目的に向かって適正かつ円滑に活動できる運営体制とメンバーが活動しやすい環境整備が必要です。

総務財務委員会は運営の一端を担っている委員会ではありますが、直接地域に変革を促す運動を行う委員会ではありません。しかし、総務運営、財務管理を丁寧に行い、メンバーが活動しやすい環境を整え、一人ひとりの力を最大限に引き出す事で「愛する郷土の発展と人間性の向上」に寄与できるものと考えております。

本年度、当委員会ではこのような考え方を基礎とし、春日部青年会議所の意思決定機関となる総会・理事会の設営においては、幅広く掘り下げた議論と公正かつ円滑な決議が行われるよう、各委員会と積極的に連携をとり、議案の進捗状況の確認や議案提出日の呼びかけを行う事で提出期日の厳守につなげ、正確な準備に基づいた効率的な運営をめざします。また、メンバーから頂いた貴重な会費によって運営される各種事業の収支予算書については、事業内容と予算の整合性の確認、事業実施後の決算が適正に会計処理されているかを慎重かつ公正な視点で協議・点検を行い、その目的が達成されるよう支援してまいります。そして、誰にでも簡単に必要な情報を引き出せるデジタルアーカイブにする事で、効果的な運動展開に繋がるよう管理し、次世代に引き継いでまいります。また、物品や備品をメンバーが効率よく活用できるように、維持・保管を図ります。それによってJCルームを、メンバー同士がさまざまな交流とふれあいを発展させ、共創しあい、わくわくして未来を語りあえるフィールドにしたいと考えます。

公益社団法人として適正な活動をし、運動を展開していくことで、春日部青年会議所が地域の方々から共感され、引き続き信頼に応えられように、組織の根となり幹となって、一つひとつ丁寧に「実に就く」姿勢で取り組んでまいります。

一年間宜しくお願い致します。

- (1)定款、諸規定に関すること。
- (2)総会・理事会の設営および関連資料の作成。
- (3)会員名簿の完備、ハンドブック・名刺の作成。
- (4)褒賞、表彰に関すること。
- (5) J Cルームの管理及び物品備品の保管、管理に関すること。
- (6) デジタルアーカイブ (各資料のデジタル化と管理) に関すること。
- (7)例会・事業に於ける会員の出欠記録及びオブザーバー参加者の出席記録に関すること。
- (8) 会費の徴収に関すること。
- (9) 財務の管理に関すること。
- (10)その他各委員会に属さない事項。

専務理事 広報室担当 小川 哲史

継承

~誠意ある心で貫く姿勢~

公益社団法人春日部青年会議所は、創立より 53 年間という長き歴史を紡ぎながら、愛する郷土の発展と人間性の向上を目的に運動して参りました。現在に至るまでには、先輩諸兄の弛まぬ努力と、地域の皆様からのご支援、ご協力があった事にあらためて感謝を申し上げます。

春日部青年会議所の運動を理解し共感してもらい、より良い信頼関係を築いていく為には、地域の方々や身近な人たちに、我々がどのような運動を行っているのか誠意を持って発信することが重要です。そこで、本年はホームページなど既存の媒体を更に充実しつつ、地域の方々が我々の運動に興味や関心を持ってもらえるような継続してできる広報活動を模索し、春日部青年会議所を積極的にPRします。

私たちが運動するこの地域には、他にも地域に向けて運動している多くの団体があります。現在まで私たちがこの地域で運動を出来たのも、今まで先輩諸兄が築いてきた信頼があったからです。今後も、地域の方々に対して LOM の窓口として責任を持ってしっかりと連絡調整や情報の共有を行う事で、関係各諸団体とお互いに信頼のできる関係づくりを継続する事ができ、これからも春日部青年会議所という組織が地域に対して、より力強い未来に向けた運動を展開していく事ができるはずです。そして、地域の関係各諸団体や行政機関、また日本青年会議所から得た様々な情報を各メンバーが有意義に活用できるように LOM内に発信していきます。

また、本年も多くのメンバーが出向いたします。LOMでは得られない貴重な学びや出会いがあり、自身のさらなる成長を促してくれるでしょう。広報室では、各地で活躍しているメンバー一人ひとりへの継続したサポートを行います。

本年、広報室は関係各諸団体や日本青年会議所とのしっかりとした橋渡しとなると共に、 春日部青年会議所の情報発信を今まで以上に地域の人たちに対して誠意を持って行ってい くべく、日頃のご協力に改めて感謝しながら、実に就く姿勢で邁進して参ります。

伝統を紡ぐ

~真心を込めて、魅力を広める~

公益社団法人春日部青年会議所は創立以来 53 年間にわたり「明るい豊かな社会を築きあげる」運動に邁進してきました。今日までその運動を続けることが出来たのも先輩諸兄が地域の方々から共感と信頼を得るために尽力されたからです。私たちはそのことに感謝を忘れてはなりません。

これからも長き歴史を途切れさせることなく地域に必要とされる団体であり続けるためにより一層のご理解とご協力を頂き青年会議所運動を広めていきます。

広報渉外委員会では魅力ある青年会議所運動を多くの地域の方々へ発信する必要があると考えます。なぜなら春日部青年会議所の活動を支えてくれている方々たちから継続してご理解とご協力を頂くことはもちろんのこと、新たに春日部青年会議所のことについて興味・関心を持って頂ける地域の方々を一人でも増やすことができるからです。

そのために広報活動として、既存の媒体を活かしながら広報活動の中身を充実させ、春日 部青年会議所の活動エリアである春日部市、杉戸町、宮代町に対して各委員会と連携した広 報活動を強化することでより多くの地域の方々へ発信して参ります。

渉外活動においては、年間を通した連絡調整を確立して参ります。LOM の窓口として責任を持って地域の関係諸団体等と迅速かつ正確、丁寧な連絡のやり取りをし、先輩諸兄が築きあげてきた信用を守り続けていきます。

さらに今年も多くのメンバーが公益社団法人日本青年会議所及び埼玉ブロック協議会へ 出向します。出向先でメンバーは多くの学びを得てそれを LOM やこの地域へ還元してくれ ることと思います。日本青年会議所が主催する各種大会の情報を迅速にメンバーのもとへ 伝え、多くのメンバーで駆けつけることで出向メンバーをサポートします。

私たちが日頃から JC 活動に取り組むことができるのも家族や会社の従業員など身近な方々たちのご理解とご協力があるおかげだと考えます。そこで私たちの留守を預かってくれている身近な方々に対して私たちが JC でどのような活動をしているのかをしっかりと伝える機会を創出して参ります。そのことで私たちの JC 活動をより一層充実させることができると考えます。

今年度広報渉外委員会では先輩諸兄が大切に紡いできた地域の方々との信用を守り続け

ることはもちろんのこと、私たちの活動エリアである春日部市、杉戸町、宮代町に対して余 すことなく運動を発信していきます。そして、より多くの地域の方々に春日部青年会議所の 魅力を感じてもらうことができるよう広報渉外活動に力を尽くして参ります。

一年間宜しくお願い致します。

- (1) 専務理事の補佐。
- (2) 11月例会の調査・研究・計画・立案・実施。
- (3) 慶弔に関すること。
- (4) 広報に関すること。
- (5)公益社団法人日本青年会議所・関東地区協議会・埼玉ブロック協議会との連絡調整。
- (6)各種大会の案内・手配及び出向者に関すること。
- (7) 行政その他、地域の諸団体との渉外。
- (8) 例会・事業等に関する資料・写真・映像などの収集及び管理。
- (9)ホームページの管理。
- (10) じゃがいもに関すること。
- (11) 同好会に関すること。

出会いが未来を紡ぐ

春日部青年会議所は半世紀に渡り、多くの先輩諸兄、そして地域の皆様に支えられながら 今日まで、地域に根ざした力強い運動を展開して参りました。

その歴史は正に、仲間との出会い、そして別れの繰り返し中で生まれる英知と勇気と情熱の結集が、今日までの歴史を紡いできたと言っても過言ではありません。会員室は、力強い青年会議所運動の原動力となる、共に地域の未来を想う若き力を求め一年間活動をして参ります。

春日部青年会議所が今後も地域に根ざした力強い運動を展開して行くためには常に、メンバー数を維持、そして増加させて行かなければなりません。会員数の減少は、我々の組織の活力を奪い、地域に向けた運動の発進力を低下させてしまうのです。会員拡大運動を通して、メンバー一人ひとりが危機意識を持ち、まだ見ぬ仲間をこの組織に迎い入れましょう。

会員拡大運動は、組織の仲間と価値観を共有できる直接的な市民意識変革運動と考えます。この効果を最大限に引き出す為に、今一度、組織の魅力を見つめなおし、入会対象者へ余すことなく発信して参りましょう。その情熱は必ず入会対象者へ伝わるはずです。

更に組織内に於いては、既存の情報と自らの足で稼いだ情報、一つひとつを大切にする事はもちろん、常に情報が見える風通しのよい組織にする事も重要です。

会員拡大運動に向けた更なる組織の気運を高めるために、まずは会員室が率先した姿勢を示して参ります。

会員室に求められるミッションは、ただ拡大運動を行えばよいということではなく、新入 会員のフォローもその大きなミッションです。入会間もない会員は、青年会議所活動へ多く の不安を抱えている事と考えます。その不安は活動への参加を遠ざけ、青年会議所の多くを 知ることなく卒業を迎えてしまう事に危惧を覚えます。春日部青年会議所において最初に 配属されるこの塾という委員会は新入会員にとって大変重要な役割を担っております。そ れは、生涯の仲間となる同期という存在に出会える事です。この同期という存在こそ、活動 への不安を取り除き、積極的な活動へと促すのです。

だからこそ、ここで出会った仲間と語らい、そして切磋琢磨できる環境を提供する事が重要であり、春日部青年会議所の魅力に触れることのできる第一歩へと繋がるのです。

そして最後の学び舎と呼ばれる青年会議所に於いて、未来の春日部青年会議所の担い手

となる新入会員に対し、その歴史とこれまで支えてきた先輩方の想いを色濃く継承してい くと共に、組織の一端を担う人財となるための資質向上を図って行かなければなりません。

地域に新たな価値を創造し、人を動かし、人を集める事のできるこの素晴らしい青年会議 所という組織を未来に繋げて行くために、決して華やかではないかもしれないが、一つひと つ着実に、英知と勇気と情熱の種を蒔き、育てる『実に就く』姿勢を以って一年間邁進して 参ります。

委員会方針

会員拡大委員会 委員長 斉之平 眞梨子

君の名は希望

公益社団法人春日部青年会議所は創立されてから今日に至るまで地域社会の発展に貢献 し、その活動と実績は半世紀以上にわたり地域住民に支持され信頼されてきました。それ はひとえに、先輩諸兄の皆様の並々ならぬご尽力と地域の皆様のご支援あってのものと存 じます。これまで支えてくださいましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

近年、全国の青年会議所では会員数の減少が叫ばれており、我々の所属する春日部青年会議所においても例外ではありません。会員数の減少は、青年会議所運動そのものの縮小に繋がります。地域社会の発展に寄与してきた団体が縮小するということは、地域にとって大きな損失と言えるでしょう。そして、この地域の未来を担う青年経済人が地域に向けた運動を展開していくなかで切磋琢磨しながら人間性の向上を図っていく場が失われることは、我々の目指す「明るい豊かな社会」の実現から遠ざかることになり、絶対に避けなければなりません。

我々現役メンバーは卒業制度のある青年会議所に所属する限り、団体の維持・発展への 責任を持つ必要があると考えます。愛する郷土の発展を想い共に活動する仲間が増えるこ とは組織の活性化に繋がり、地域に向けてより力強い青年会議所運動を展開することがで きます。また我々が、同世代の青年経済人ひとりひとりに語りかけ、愛する郷土の発展の ために行動する仲間を増やしていくことは、青年会議所が創立以来継続してきた最も直接 的かつ崇高な青年会議所運動であると言えます。

本年度、会員拡大委員会では(一)「情報発信」(二)「情報収集」(三)「情報整理」の三点に重きを置いて、運動を展開してまいります。まず(一)「情報発信」につきましては、入会対象者向けリーフレット・公式ホームページ・SNS を相互連結して相乗効果を高め、春日部青年会議所の魅力を未だ知らない地域住民に向けて広く効果的に発信してまいります。次に(二)「情報収集」につきましては、機関紙に会員拡大コーナーを設け、我々にとって最も良き理解者である先輩諸兄との連絡窓口をつくり連携を図ります。また、各委員会に積極的に訪問し最新の情報を顔を合わせて交換することにより、メンバー全員の会員拡大に対する意識の向上を図ります。最後に(三)「情報整理」につきましては、上記の方法で集めた入会対象者に関する情報を次年度以降に確実に引き継ぐために、厳選された情報を誰が見てもわかりやすく整理し、運動の質と効率を高めます。以上の点を踏まえた上

で、同世代の青年経済人ひとりひとりに誠心誠意をもって向き合い、相手の立場や気持ちに寄り添った「対話」を最も大切にした会員拡大運動を展開してまいります。

春日部青年会議所に代々受け継がれてきた「利他の精神」という名の燃え滾る熱い炎を 未来永劫この地に燈し続けていくためには、新しい仲間が必要です。春日部青年会議所の 希望である新しい仲間を求めて、私は諦めることなく進取果敢に率先垂範してまいります。

一年間宜しくお願い致します。

- (1)会員の拡大に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2)会員の入会に関すること。

仁義礼智信

~生涯の仲間(とも)を見つけ、共に学ぼう~

春日部青年会議所は愛する地域の発展と人間性の向上を目的とし、奉仕・修練・友情の三信条のもと、明るい豊かな社会の創造を目指す一面と、その為の人財を育成する青年経済人の学び舎としての一面を持ち合わせています。

私もそうであったように、入会したばかりの頃は右も左もわからず、誰と話したらいいのか、何をしたらいいのか迷い、青年会議所活動の意義や楽しさもわかないものです。

まずは委員会、例会、事業と青年会議所の活動に参加をしてもらうことが一番大事です。

本年度、JAYCEE育成塾では塾生が何でも話し合うことができ、悩みを相談でき安心できる居場所であると感じられるような塾でありたい。そして塾生には将来、春日部青年会議所の中核を担うような積極的なメンバーになってもらいたい。その為には青年会議所の活動内容や存在意義を理解し、メンバーであることの誇りを持ってもらうことが必要です。そうすることで自身のJCライフでの目標が明確になり積極的になることができると考えます。

青年会議所にはさまざまな職種、知識や経験を持ったメンバーが多く所属し、求めれば自身を成長させることの出来る多くの機会が存在します。

オリエンテーションを通じて多くの人とのつながりを作り、JCにおける理論や事業構築の考え方はもちろんのこと、青年経済人として地域に働きかけるオピニオンリーダーとしてのあるべき姿をメンバー同士で切磋琢磨をしながら学んでいこう。

仁:人を思いやること

義:利欲にとらわれず、成すべきことをすること

礼:習慣や歴史を重んじること

智:道理をよく知りえて知識豊富であること

信:友情に厚く誠実であること

塾生自身が卒業を迎えるときに、この学び舎で生涯の仲間(とも)を見つけ、友情を築けたことへの喜びを感じ、そして、地域に対して自信を持ってリーダーシップを発揮できる、そんな「仁・義・礼・智・信」を兼ね備えたJAYCEEであってもらいたい。

私自身が今までにこのJCで出会った人達から学ばせていただいた事や経験をしっかりと伝え、春日部青年会議所が情熱あふれるメンバーで地域に力強い運動が出来るよう邁進して参ります。

一年間、宜しくお願い致します。

- (1) 新入会員へのオリエンテーションに関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2)4月例会の調査・研究・計画・立案・実施。
- (3) その他新入会員に関すること。

一心同体

~子どもを中心としたふれあいから元気なまちへ~

公益社団法人春日部青年会議所は、設立当初より愛する郷土の発展と人間性の向上を目的に運動を展開しております。そのなかで、人づくり運動としてその時代の背景を見据え、青少年に対して様々な育成事業を行ってまいりました。春日部青年会議所設立当初からすると物質的に豊かになり、ネット環境や情報通信の進化による恩恵を受けている一方、子どもたちを取り巻く環境には、人と人のふれあいが織りなすコミュニケーションが不足していると考えます。このような生身の人間同士のコミュニケーションを増やす事で、地域が将来にわたって人間味と活力のあふれる元気なまちへ向かっていくのではないでしょうか。

コミュニケーションには、子ども同士、親子、地域と様々な場面があります。

子ども同士がふれあい、互いの感情を読みとり直接相手と向き合うことで、気持ちを伝えられる人間関係を築くことができます。そして、人と人がふれあう関係が生まれることで、子ども同士の団結心が生まれ、子どもたちは、目標へ向かう為にこうして行こうという仲間同士一致した気概が生まれていくのです。

さらに、親子間のコミュニケーションがうまく出来ていると、親は、子どもが学校で起きている出来事や悩みを聞いてあげることが出来ます。そして子どもへ、目の前の問題に対するアドバイスやヒントを伝えることが出来るでしょう。

また、子どもを中心とした地域間コミュニケーションが活発になれば、大人は我が子だけではなく地域の担い手となる宝(地域の子どもたち)という枠組みで子どもたちに教育を行う社会に変わっていきます。

人と人との温かいふれあいを経験することで、子どもたちは大人になったとき、未来の子 どもたちに対し愛情をもった教育をおこなえる青年に育っているでしょう。そんな青年が 増えれば、地域はより人と人がふれあう社会となり、未来へつながる循環を生んでいきます。 その循環は地域を人間味と活力のあふれる元気なまちへと変化させていくでしょう。

本年度育成室では、子ども人口が減少している今だからこそ現代の子どもたちに、人と人 とのふれあいが生み出す豊かな地域体験によって子どもたちが大人になったときこの故郷 に残りたい、戻りたいと思えるような事業を展開して参ります。

随喜功徳

~仲間の思いに共感しよう~

公益社団法人春日部青年会議所は、設立当初より愛する郷土の発展と人間性の向上を目的に運動を展開しております。そのなかで、人づくり運動としてその時代の背景を真剣に見据え、青少年に対して様々な事業を行って参りました。

近年では、ネット環境や情報通信の進化にともない画面だけのやり取りで簡単にコミュニケーションが取れる反面、子ども同士、親子同士の直接的なコミュニケーションが不足していると考えます。

また、ゲーム機器が普及したことにより、使い手の表情に関係なくコンピュータは機嫌を 取ってくれます。画面を通じた結果のみを追求するゲームにより、運動不足と共に人と人と のふれあいが織りなすコミュニケーションが不足していると考えます。

人と人とのふれあいが織りなすコミュニケーションが不足することにより、地域でもご 近所同士で目も合わせない、他人に気をかけない地元での地に足を付けた思い出が希薄と なってしまうでしょう。

子どもたちは体を使って、家の中でも、外でも、元気に友達と一緒に遊ぶだけで言葉や表情で通じ合う自然と身体から湧き上がる楽しさや喜びを感じる事が出来ます。それにより子ども同士の団結心が生まれ、子どもたちは目標を決め目標へ向かう為にこうして行こうという仲間同士一致した気概が生まれていくのです。

親はそうした子ども同士の団結心、目標へ向かう姿や会話から子どもの成長に気が付く 事ができるでしょう。

子どもから近所の子の話を聞いている親は近所の子にも気をかけ挨拶をするようになります。挨拶が増えると人間関係の壁は無くなり、他人ではなく地域という大きい家族という目線で言葉を交わしあえる環境になり、人間味と活力のあふれる元気なまちへと変わっていきます。そんな人と人とが出会った場所は最高の思い出として心に刻まれるはずです。

子どもたちは周りに居る人の表情や言葉、行動をみて育ちます。我々がお手本となり子どもたちが自然に挨拶や質問しやすい笑顔の絶えない関係性を作れるようにします。

また、人と人とがふれあう関係が生まれやすい環境の中で子どもたちの運動不足の解消 へと繋げていこうと考えています。 そして、子ども同士、親子、地域の方々が一つの場所に集まって心に残る思い出づくりが 出来る運動を展開していきます。

今年度、次世代育成委員会では子どもたちをはじめ、親子、地域の方々が集まって教育の 出来る環境を構築いたします。その中でも、教育は「結果」ではなく「物事に取り組む中で のコミュニケーション」を大事にしていきます。人と人とのふれあいが織りなすコミュニケ ーションを通じて自然と身体から湧き上がる楽しさ喜びを伝えて参ります。

一年間宜しくお願い致します。

- (1)次世代の育成に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2)小学生ドッジボール大会の計画・立案・実施。

BORDER FREE

春日部青年会議所の国際交流事業であるパサディナホームステイプログラムは、本年度 33年目を迎えます。これまでの歴史を紡いで来られた多くの先人たちのご尽力と弛まぬ 努力に対して深い感謝と心からの敬意を表します。

次代を担う若者の国際的な視野を広げ、国際的理解と価値観を涵養する機会を提供してきたパサディナホームステイプログラムは、春日部青年会議所が地域に誇るすばらしい事業です。すべてが一対一の繋がりから始まるこの事業は、民間外交とも言うべき心と心の交流による実体験を通じて、青年会議所の掲げる世界との友情〈Friendship〉を育むことができる、まさしく恒久的世界平和の実現に向けた草の根運動にほかなりません。だからこそ、この素晴らしい事業を本年度も力強く継続し、多くのメンバーで訪問することによって、春日部青年会議所とアメリカ合衆国パサディナ青年会議所との相互理解と友情を更に深めて参りましょう。

近年、国内における外国人登録者数は増加し、私たちの住んでいる地域も同様に、生活の あらゆる場面で外国人と触れ合う機会が増えています。しかし、こうしたグローバル化の渦 中にいる私たちは、日本とは異なる言語や文化をもつ外国人を「彼ら」として捉えがちで、 無意識に心に見えない壁をつくってしまってはいないでしょうか。

国際室の考える「地域の国際化」とは、この地域に住まう国籍などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い対等な関係を築こうとしながら地域社会を構成する一員として、共に生きていける社会を実現することだと考えます。また、国と国との関係は、その時々の政治や経済の状況に影響を受けますが、人と人との心の通った交流は時代がどのように変わろうともその重要性が低下することはありません。だからこそ、時流に流されることのない、しっかりとした信頼関係を築き、お互いを理解する気持ちを育ててゆくことが、ますます重要になっていくものと考えます。したがって、私たちは、感受性豊かな多くの若者に国際的理解と親善を助長する機会を提供し、「地域の国際化」に向けた種を地域に撒いていく必要があるのです。

訪問する本年度、国際室では中期運動指針として策定した郷土愛循環運動と連動した事業を展開して参ります。地域の青少年に対して、改めて日本や地域の歴史・伝統・文化について学び、共有する機会を創出することによって、世界とより深い関係性を築き、本事業の効果性を高めます。本事業に参加した当事者のみならず、その周囲の人たちにも国際的理解とその価値観を波及させ民間外交の担い手となる市民を一人でも多く生み出して参ります。

一年間宜しくお願い致します。

「世界を感じよう!国境を越える心の交流」

本年でパサディナホームステイプログラムは33年目となります。ここまで長きに渡って続いているのも、先輩諸兄がいつの時代もパサディナ青年会議所と交流をして絆を深め、今日まで引き継いでいただいたおかげであります。近年の春日部青年会議所では、この事業に関わってきたメンバーが世代交代によって減少してきており、2018年度卒業生を除くと、パサディナに訪問したことがある LOM メンバーは僅か8名だけとなってしまいます。また、全てのLOMメンバーが本事業に対して関心を持っているとは言い難く、次代に引き継いでいくという気概が希薄になっていると感じています。

両JC 間の理解と友情が弱くなってしまうとパサディナに訪問できる人数が減少し、地域の青少年たちに国際的理解を醸成する機会を広く発信することができなくなってしまいます。本事業は両JC 間の理解と友情を土台として成り立っており、長年に渡って地域の国際化に寄与し続けている地域に誇れる素晴らしい事業です。だからこそ、多くの春日部青年会議所メンバーでパサディナの人々と積極的に心と心の交流をして、春日部とパサディナ両JC 間の理解と友情を更に深めて参りましょう。

普段の私たちは外国語が話せない、どう接していいか分からずに外国人と交流することができないと思い込んで心の壁を作り、積極的に交流することを躊躇してしまいがちです。以前の私も同じく外国人との交流に抵抗がありましたが、本事業に参加してパサディナの人々と同じ時間を共に過ごすことで理解と友情が深まり、外国人に対する意識が変わりました。私が変わったように、地域の青少年には本事業を通じて様々な経験をしてもらい、少しでも国際交流に対する意識が変わって欲しいと思います。

そのため、本年も多くの地域の青少年に本事業へ参加してもらうことによって、生活習慣など文化の違いを実感し国際的理解を深めていただきます。ホストファミリーは暖かい思いやりを持って接してくれます。それに応えて思いやりの心で接すれば、言葉や文化の違いを超えた友情を築くことができ、心の壁を取り除くことができます。また、本年の特色として、本事業に参加する青少年に改めて日本の文化や歴史を学んでいただきます。自国の歴史や文化を学ぶことは、自分自身と日本のアイデンティティーを培うことに繋がります。自国とは異なる文化の違いを認め、互いに尊重し、相互に理解しようとすることができ、より深い関係になることができると考えます。そして、本事業に参加した青少年たちが地域の身近な人たちにこのプログラムを経験してどのように思ったかを伝え、国際交流に少しでも関心を持ってもらう機会を作ります。

多くの地域の青少年と春日部メンバーを引き連れてパサディナに行き、世界を感じても らい、国境を超えた心の交流ができるよう真剣に取り組んで参ります。

一年間宜しくお願い致します。

- (1)国際交流に関する事業の調査・研究・計画・立案・実施。
- (2)パサディナ青年会議所との交流事業の計画・立案・実施。

みんなで広げよう楽しいじゃがいもの輪

公益社団法人春日部青年会議所のじゃがいもゴルフコンペは脈々と受け継がれ、昨年久喜 J C合同ゴルフコンペじゃがいも秋場所は、第40回目が開催されました。歴史を繋いでいただいた先輩諸兄をはじめ、ご協力をいただきました方々へ深く感謝を申し上げます。

いつかはゴルフをしたいと考えながら、なかなか機会に恵まれなかった私は、数年前にじゃがいもゴルフコンペへ参加をしてみました。組み合わせが一緒だった先輩が初心者の私に心温かく指導をしてくださり、それ以降現在でも、ゴルフはもとより、仕事やJC、家庭について親身に相談にのってくれています。もしあの時、じゃがいもゴルフコンペへ参加しなければこの大切なご縁は結ばれなかったと考えると、まだ参加をしたことがないメンバーにも是非参加をしてもらいたいと思っております。その為にも、早い時期からじゃがいも開催日を周知し、より多くの方に参加をしてもらえるように案内をして参ります。まずは参加をしていただき、楽しい時間を共に過ごした事で生まれる絆は、今後において貴重な財産となると考えております。

ゴルフの練習会に於いては、開催するにあたり、練習会の案内を SNS や電話・メール連絡を用いて多くの方々に周知し、参加者を増やしていきます。練習会ではゴルフの上手な方から教わることで、ゴルフの楽しさをまずは知ってもらい、じゃがいもゴルフコンペに多くの人数で参加してもらえるようにしていきます。

じゃがいもゴルフコンペを通じて、共に過ごす楽しい時間が、OB と現役、両 JC 間の絆を更に深めていくと信じています。

ゴルフは初心者ですが、一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

- (1) じゃがいも春場所の実施。
- (2) じゃがいも秋場所の実施(公益社団法人久喜青年会議所との合同)。
- (3) じゃがいも練習会の実施。
- (4) 会員との親睦を図る事。

世代を越えたサッカー交流

~ひとつのボールがもたらす可能性~

春日部青年会議所単独での出場は4年目を迎え、更なる躍進を図るため経営的視点から、3Wをキーワードにサッカーを通しFootwork(フットワーク)Teamwork(チームワーク)・Network(ネットワーク)の構築を図りたいと考えております。

サッカーは瞬時の Footwork を必要とします。経営も同様に社内における内部要因、そして、政治や経済における外部要因と同様に私たちは瞬時の判断が必要とされますが、サッカーを通して機敏な判断力を身に付けられたらと考えます。

そして私たち経営者は家族の支え無くして安定的経営の存続は難しいと考えます。 Teamwork の基本となる「家族」の視点から、参画する一つのきっかけとして家族参加型の サッカーと、もう一つは、4年に1度の祭典「FIFA ワールドカップ ロシア大会」の開催 を通して、観戦を楽しみながら一体となることのできるものを提案したいと考えます。

最後に JC メンバーの年齢的領域は 20 歳から 40 歳と限られていますが、現役メンバーのみならず、先輩諸兄の方々ともサッカーを通し Network を構築することで、様々な視点・価値観を得ることのできる機会を創出したいと考えております。

たった一つのボールがもたらす新たな価値観と可能性を満喫できる一年にして参ります。

一年間宜しくお願い致します。

- (1) 練習会の実施。
- (2) 全国大会への参加。
- (3) 会員との親睦を図ること。